



# アビラ



平成 29 (2017) 年 1 月 23 日  
在ベネズエラ日本国大使館  
附属カラカス日本人学校発行

目指す児童生徒像 よく考える子 思いやりのある子 進んでやりぬく子 強くたくましい子 日本もベネズエラもよく知る子

何かに挑戦(行動)することって素晴らしい! だって、挑戦(行動)しないと成功も失敗も味わえないから…  
実用英語技能検定、アビラ登山、囲碁…いっぱい新しいこと、困難なことに挑戦してきた子どもたち!

■■初めて英語検定に挑戦!■■



1月20日(金)に、小学部の児童4名が初めて実用英語技能検定(英検)を受験しました。この日まで、学校や自宅で準備を進めてきました。当日は初めてということもあって、緊張した雰囲気の中での受験となりました。

■■アビラ登山のために■■

1月20日(金)の全校学活は、アビラ登山の事前指導でした。児童一人一人の目標発表の後、先生方からスポーツの感動話をもとに、激励の熱い言葉が贈られました。1月27日(金)のアビラ登山では、どんな感動話が誕生するのでしょうか。



●●●●早いですね。子どもたちはここまで上達しました! (囲碁クラブ)●●●●

1月20日(金)6校時は、全校囲碁クラブの3回目でした。この日は講師のローリー先生がお休みでしたが、自分たちでもう対局ができますから、大丈夫です。静かな雰囲気の中に、碁石を打つ音が響きま。今日も真剣勝負が繰り広げられ、子どもたちの技量はまた高まりました。囲碁はおもしろい!



カラカス日本人学校をもっともっと知り、もっともっと好きになるために…(その147)

カラカス日本人学校はみんなの大切な、大切な宝物です! NO. 42

今回も約9年前に発刊された「ベネズエラと共に80年」(日系人協会移住80周年記念誌)からの転載です。記念誌には、日本人学校に関する記述があります。今回はそれを記します。■カラカス日本人学校■ 私たちベネズエラ日系人(日本人の子孫)にとって、カラカス日本人学校があり、ベネズエラ各地に日本語教室を持っていることは誇りである。これは子供たちと共にベネズエラに最初に到着し、日本語を失いたくないと考えたいくつもの家族による大きな努力と活動のおかげである。1967年当時、会議が持たれ、土曜日毎に親たちが子供たちに授業を行うことが決められた。この時、初めて土曜日日本人学校(補習授業校)が誕生した。その日から、親たちは、子供たちが全日制の授業を受けることができるよう、校舎の建設のために働き始めた。■日本人学校略史■ 以上がカラカス日本人学校の始まりに関する、非常に簡単な略史である。今までに、数え切れない程の問題が学校に起こり、数え切れない程の人々がその問題の解決に尽力してきた。彼らの努力は決して無駄ではなかった。なぜなら、日本人学校で学んだ生徒が価値ある教育を受け、家族も含めて学校で楽しい時間を過ごし、また、これからもカラカス日本人学校での楽しい思い出を持ち続けていくからだ。■日本語で学ぶ学校の思い出を■ 様々な日本語学校や日本語教室が、ベネズエラ各地にある。初期のカラカス日本人学校と同じように、母国語である日本語が失われていくことを心配した親たちや代表者、ボランティアの人々が、自分たちの時間をさいて、教師として日本語の普及を行っている。つづく